

犬山の自然をたずねて

～入鹿池・五条川周辺コース～

大 山 市

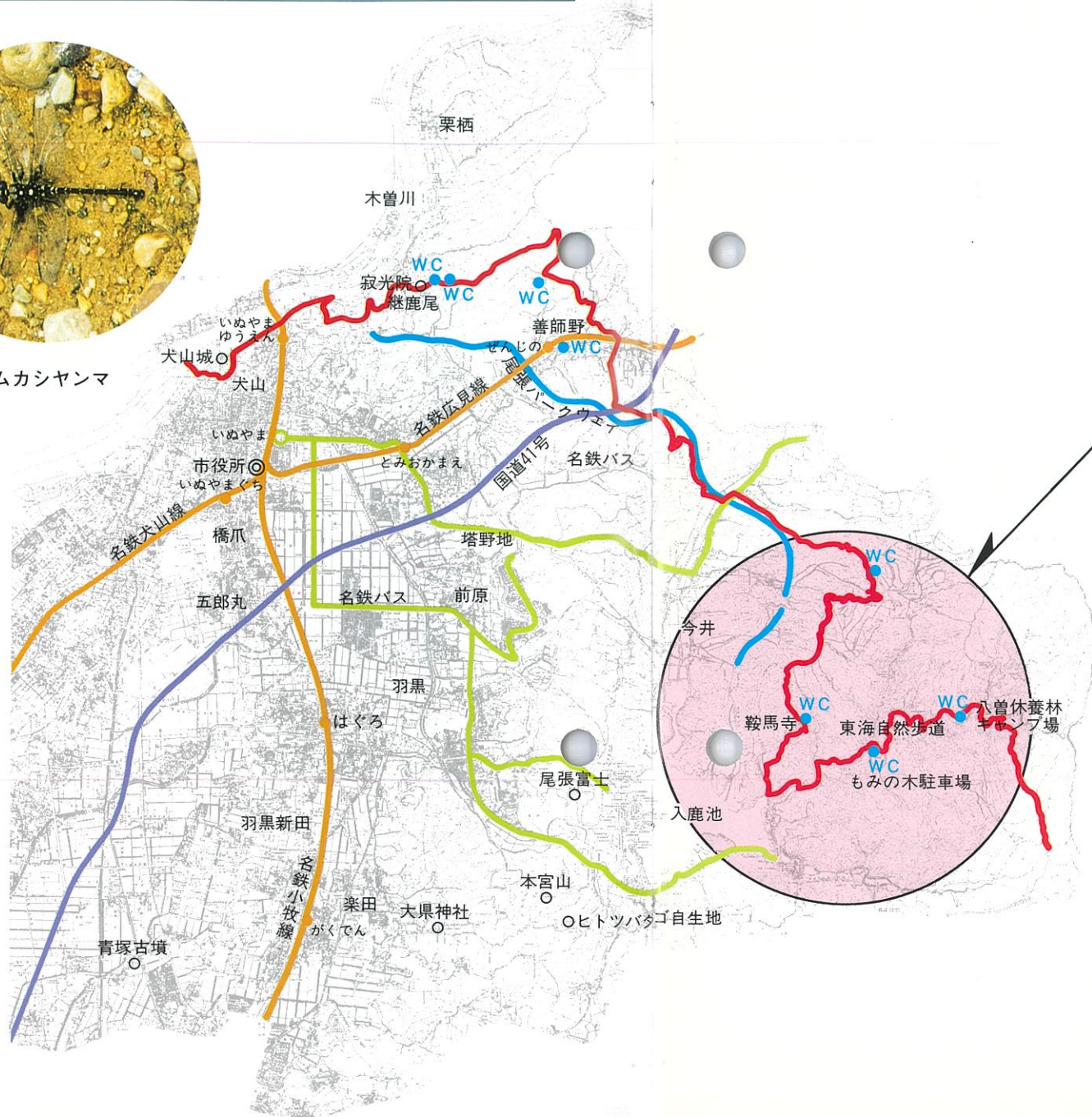
入鹿池・五条川周辺コース位置



ムカシヤンマ

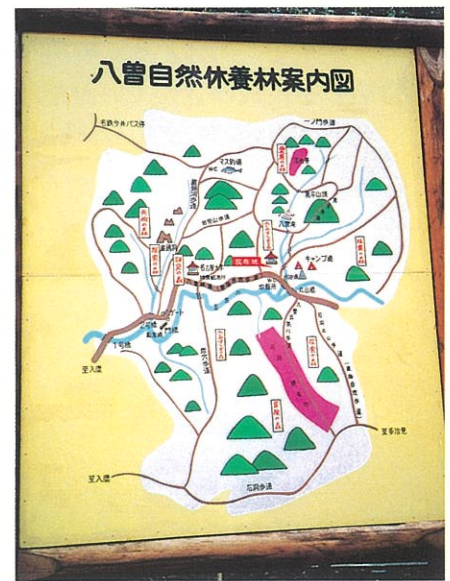


イノデ



入鹿池・五条川周辺コース

※現地までの交通/
名鉄バス奥入鹿遊園バス停車
(名鉄バス犬山駅前発)



はじめに

私たちの日常生活は、毎日が慌ただしく過ぎ去っていきます。時には少し手を休め、自然と触れ合うことによって心身のリフレッシュを図ることも必要ではないでしょうか。

私たちの住む犬山市の東部地域には、緑の宝庫愛岐丘陵が広がっており、近年のエコロジーブームにより自然と触れ合いを求める人が多くなってきています。

犬山市では、自然についての知識を深め、自然の大切さを考えていくため、「犬山市の昆虫」「犬山の魚たち」など数多くの冊子を作成してきましたが、昨年度より、犬山市の自然を各地域ごとに紹介し、みなさんの自然観察のお手伝いができるような手軽な自然シリーズとして、このガイドブックの作成をしています。

今回は、前回紹介した善師野周辺コースに続き、第2弾として入鹿池・五条川周辺コースを紹介させていただきました。

このガイドブックが、前回のものと同様に多くの方に利用され、自然の中に飛び込んでいただけるきっかけとなれば幸いです。

平成7年3月

犬山市長 松山 邦夫

もくじ

- 準備をしよう 1
- 入鹿池・五条川周辺コース案内図 3
- ①入鹿池周辺 5
- ②五条川に沿って 7
- ③八曽の滝周辺 9
- ④ガンドガマ・五段の滝周辺 10
- 春一番に咲く花 11
(マンサク・シデコブシの花)
- 耳をすませば 12
(セミの仲間)
- 探してみよう 13
(トンボの仲間と水の中に住む生き物の観察)
- 近づかないで!! 15
(山の中で注意する生き物)
- 外国からの移住者たち 16
(入鹿池の帰化生物たち)



準備をしよう

◎はじめに

入鹿池五条川周辺コースはバス停(奥入鹿遊園)が付近にあります。

また、奥入鹿橋より五条川沿いを奥にいくと駐車場がありますが、車の利用は最小限にとどめましょう。

コース設定については、前日までに地図で場所を確認し、自分の体力を考えて決めてください。普通に歩く時間よりもかなり多めに時間を取らないと観察することはできません。

地図は、国土地理院の2万5千分の1の地形図(小泉)が便利ですが、1枚になった都市地図も利用できます。

用意ができたなら前日は早めに就寝して体調を整えてください。

なお、当日は時間に余裕を持って行動しましょう。途中でけがをしたり気分が悪くなったら、コースの途中でも観察をやめて適切な処置をしてください。

◎服装について

目的や場所によって多少変わりますが、このコースでは長ズボンに長そでのシャツ、帽子に運動靴を基本にします。山の中では毒虫や木のトゲ、木や草の葉などでけがしたり、かぶれたりすることがあり注意が必要です。

水の中の生き物を観察する場合は、石などで足の裏を切らないよう古い靴や草履をはいてください。また、川辺の草むらや石と石、倒木と倒木の間にできた穴にはへびなどが住んでいる場合がありますので、むやみに手を入れしないでください。(川は急に深くなる所もあるので、観察には十分注意してください。)

◎持ち物について

これがないと観察できないというものはありませんが、あれば便利なものを書いておきます。

○ノート……ノートはポケットに入る大きさのもの、鉛筆は使い古しの短と鉛筆 いものにひもを付けて首にかけておくと便利です。

○双眼鏡……鳥や木の上の方を観察するのに便利です。倍率の高いものは視野が狭く重いので7~8倍のものが便利です。逆さにして対物レンズから見るとルーベの代用にもなります。

○ルーベ……10~15倍位が適当です。

○図鑑……保育社「カラー自然ガイド」、野鳥の会「野山の鳥」などハンディなものにします。

○その他……1日の予定のときは弁当、水筒、雨具、ゴミ袋、手ぬぐい、軍手、虫よけなどの薬、救急絆創膏、記録が必要であればカメラ、テープレコーダーなど、手に持たないでリュックサックに入れます。



自然は自分一人のものではありません。むやみに花や昆虫などを取るのはやめ、マナーを守って楽しく自然観察をしましょう。



入鹿池・五条川周辺コース案内図



〈五条川〉

五条川は、多治見市から犬山市、大口町、江南市、岩倉市を経て新川に流れ込む川です。

特に、八曾国有林から入鹿池へ流れ込む区域は、自然河川の形態を残す、市内で最もきれいな川です。

| 凡 | 例 |
|---|-------------------------------|
| — | 入鹿池・五条川周辺コースの代表的コース |
| ◇ | 入口案内板 (交通利用拠点からコース入口までの案内) |
| ◆ | 案内板 (地域の概要と所要時間を表示) |
| ★ | 解説板 (観光地などの解説) |
| ☆ | 名称板 (その地点の名称を示す) |
| ◎ | トイレ |



◎入鹿池・五条川周辺コースについて

入鹿池は、五条川・成沢川・郷川の合流地点に作られた日本有数のため池で、周囲には雑木林も多く、早春から秋にかけていろいろな花が咲きます。

五条川は市内で一番きれいな川で、水の中の生き物も豊かです。

モミノキ駐車場から奥は、国有林になっています。この地域は明治時代にはハゲ山でしたが、人の力で今のように豊かな林にした所で、昆虫や鳥も多く住んでいます。

人工林も多いところですが、木曾川のような大きな川と違って、谷川の自然を観察するのに適しています。本宮山・尾張富士から八曾山にかけては、木曾川沿いと同じ中・古生代の地層からできています。



モミノキ駐車場 〈駐車台数約150台(有料)〉
 〈(料金)普通自動車・軽自動車…500円、二輪車…300円〉
 (平成7年3月1日現在)

①入鹿池周辺

◎入鹿池周辺の自然

入鹿池は、1632年から1633年にかけてつくられたかんがい用のため池で、香川県の満濃池とともに、国内で一、二を争う大きなため池として有名です。

この周辺は飛騨木曾川国定公園の一角に含まれた入鹿池と自然が調和した地域で、マツ類、カシ類、ナラ類、シデ類などの天然性の雑木林が豊かに残され、そこには四季を通じて美しい花々が咲きます。

早春にはシデコブシ、マンサクなどの低木やショウジョウバカマ、タチツボスミレなどの草本植物が咲き、4月を迎えるとヤマザクラ、カスミザクラ、シデザクラをはじめ、コバノミツバツツジ、ヤマツツジなどの高木・低木やニシキゴロモ、ヘビイチゴやスミレ類などの草本植物が、そのきれいな花でわたしたちの目を楽しませてくれます。

そして、夏季にはリョウブ、ウツギ、クチナシなどの低木やヤマジノホトトギス、ノアザミ、ウツボクサなどの草本植物が咲き、秋に入るとノコンギク、ユウガギク、ツリガネニンジンが草むらにひそかに花を付け、ススキ、オギ、ツルヨシ、マコモなどのイネ科植物で花暦を終わります。



入鹿池

◎入鹿池に住む魚たち

入鹿池には、わたしたちがよく知っているコイやフナの仲間をはじめとして、いろいろな魚たちが住んでいます。

ここでは、入鹿池に住む代表的な魚を紹介します。

○コイ

コイは、一見するとフナに似ていますが、口ひげが2本対(4本)あることや、体つきがフナよりスマートなので区別が付きまます。

雑食性で、水の中の小動物から藻類を食べますが、負穀ものどの奥にある菌でつぶして食べることも知られており、成長すると1メートルに達することもあります。



コイ

○ワカサギ

キュウリウオ科の魚で、わたしたちが食卓でよく見かけるシシャモはワカサギの仲間です。

雑食性で、動物性のプランクトンを主に食べ、1年で成魚となり産卵します。

この池のものは、諏訪湖より卵を移入して放流したものです。



ワカサギ

〈読めるかな?〉

次の漢字はどう読むのかな?

1. 鯉
2. 鮒
3. 鯰
4. 鰻
5. 岩魚
6. 諸子
7. 鮎

(答えは10ページ)

②五条川に沿って

五条川は、多治見から八曾国有林を経て入鹿池へ流れ込んでいます。犬山市の丘陵地にある川では最もきれいな川で、水の中に住む生き物も数多くいます。

ここでは、五条川周辺の自然とそこに住む生き物について見てみましょう。

◎人工林

人工林とは、人が山に木を植えてできた林です。

市内の山に多く植えられているのはスギとヒノキで、五条川沿いにもこのような林が多く見られます。

人工林は同じ種類の木が規則正しく植えられていて、太さ・高さが一定しています。

植えてからしばらくは下草を刈り取らないと、植えた苗木が育ちません。

また20～30年たつと地面に陽が当たらなくなり、ほかの植物が育ちにくくなるため、植物や昆虫の種類は少なくなり、単純な生態系になります。

スギは水を好む性質があるため沢沿いに植えられ、ヒノキはこの反対に尾根の方に植えられます。



人工林

◎五条川に住む生き物

○カジカガエル

アオガエル科のカエルで、背中に暗色斑と粒状隆起があり、指には岩などに張りつくための吸盤があります。

ここでは、1号橋付近より上流部に住んでおり、せせらぎの音に混じって美しい鳴き声が聞こえてきますが、保護色をしているのでなかなか姿を見ることはできません。

尾張地方では、この川にだけ見られます。



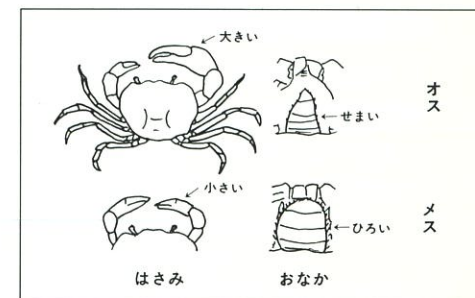
カジカガエル

○サワガニ

日本のカニの仲間は産卵のため海に下りますが、このサワガニは一生を通じて淡水で生活します。

からだの色は赤～褐色です。

水生昆虫やミミズなどを食べる肉食性で、水のきれいな清流に住みます。



サワガニ

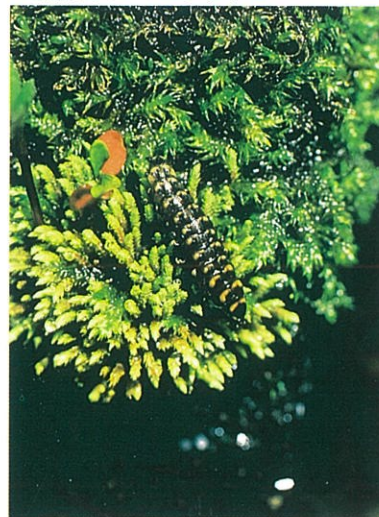
○ゲンジボタル

ホタルの仲間の中で、一番大きいゲンジボタルは清流域に住み、7～8月にかけて活動します。

幼虫期にはカワニナを食べて成長し、終令幼虫は陸に上がり、土にもぐってさなぎになります。

五条川の1号橋より上流に多く住んでおり、幼虫・成虫ともに発光します。

このホタルは、川の水が汚れると住めなくなることから、環境指標生物に指定されています。



さなぎになるため上陸したゲンジボタルの幼虫



ゲンジボタルの成虫

③八曾の滝周辺

八曾自然休養林のキャンプ場から、川沿いに北へ向かうと、八曾山の谷間にできた八曾の滝にでます。

別名「山伏の滝」とも呼ばれ、この滝付近の山を作っている中生代のチャートの崖にかかっている滝です。

ここでは、滝とその周辺の植生の違いについて観察してみましょう。

◎滝をつつむ天然の雑木林

○常緑樹

ウラジログシ・アラカシ・シラカシ・ツクバネガシなどのカシ類やヤブツバキ、サカキ、ソヨゴ、カナメモチ、リンボク、イヌツゲ、ツツジ類など

○落葉樹

カエデ類、シデ類、シデザクラ、ホオノキ、リョウブ、エゴノキなど

◎雑木林の地面の植生

ヤブコウジ・ツルアリドウシ・シシガシラ・ベニシダ類などのシダ科の植物、トウゲシバ・ヒメカンアオイ・タガネソウなどが点在

◎滝の水滴やしぶきを受ける場所

ハイゴケ類、チョウチンゴケ類などのこけ類が多く、アケボノソウ、チャルメルソウなど

— 〈知っていましたか?〉 —

常緑樹 … 一年中緑の葉をつけている樹木

落葉樹 … 冬が近づくと葉が落ち、春になると新しい葉を付ける樹木



八曾の滝（山伏の滝）

④ガンドガマ・五段の滝周辺

巖頭洞川の渓流にできた五段の滝は、周囲の森林の緑と、しぶきを上げながら流れていく清流との景色がよく溶けあつた所で、山歩きの途中の休憩所として最適な場所です。

ここでは、めずらしい名前の樹木を紹介します。

◎ヘビのような樹木

○ジャケツイバラ（蛇結莢）

マメ科の落葉低木で、4月～6月に直径3センチ程度の黄色の花が、フジのようにいくつも集まって、穂のように直立します。

幹には、かぎ形に曲がった非常に鋭いトゲ（トゲ）を持っており、このトゲを利用してほかの木に寄りかかるようにして上に伸びます。

茎がつる性で曲がりくねって、蛇がからみあってとぐろを巻いたようであることから、この名前がつけました。



ジャケツイバラ

〈6ページの答え〉

1. 鯉（コイ）
2. 鮒（フナ）
3. 鯰（ナマズ）
4. 鰻（ウナギ）
5. 岩魚（イワナ）
6. 諸子（モロコ）
7. 鮎（アユ）

*日本では、アユのことを「鮎」と書きますが、中国ではナマズのことを「鮎」と書き、アユのことを「香魚」と書きます

春一番に咲く花

落葉樹の葉は落ち、緑があふれていた大地はその輝きを失い、すべてのものが静かに眠っているように見える冬の自然。

しかし、よく見ると若芽が徐々にほころび始めるなど、新しい命が春の訪れを待っているかのようです。

ここでは、春の訪れを知って、真っ先に咲く花を紹介します。

◎マンサク

マンサクは、山の木としては春一番に咲きます。

花は、2月下旬から前年の枝に数個ずつ集まって、枝一杯に黄色い花を咲かせます。

この名前の由来は、春一番に「まず咲く」とか、枝一杯に花を着けるため「豊年満作」という意味などと言われています。

市の丘陵地に比較的多い植物ですが、この頃に山を歩くことが少ないため、この花を知らない人が多いようです。



マンサク

◎シデコブシ

シデコブシは、3月～4月にピンク色で香りのよい花を咲かせます。

この植物は、伊勢湾を囲む地域の湿地にだけ分布をする植物で、全国でも三重県の一部、岐阜県の各務原市、東濃地方、犬山市を経て長野県の一部と渥美半島にだけ自生していることが確認されています。

シデコブシの「シデ」は、12～18枚の白又はピンク色の細長い花弁が、神社などで見かける玉串やしめ縄に下げられている白い紙製の飾り（シデ）に似ていることから、「コブシ」は実の形から、この名前が付きましました。



シデコブシ

耳をすませば

道を歩いていると、どこからかセミの鳴く声が聞こえてきます。

その声は、時にはにぎやかに、また、ある時にはどこか淋しそうに聞こえてこないでしょうか。

ここでは、このコース周辺のセミについて調べてみましょう。

◎ハルゼミ

ハルゼミは、4月～6月にかけて活動します。

松林に住むことから、マツゼミとも呼ばれています。

ハルゼミは、市内で一番最初に鳴くセミです。

◎ヒグラシ

ヒグラシは、7月～9月にかけて活動します。

このセミは、平地から山間部にかけて多く住みますが、市内ではこの地域だけで、明け方と夕方にその声を聞くことができます。

ここでは、スギ・ヒノキの人工林に多く住んでいます。



セミヤドリガが寄生したヒグラシ

この他にも、チッチゼミ、ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミ、アブラゼミの姿も見ることができます。

〈いろいろな鳴き声〉

次のセミの鳴き声は？
(セミの種類)

1. ミンミンゼミ
2. ヒグラシ
3. ツクツクボウシ
4. チッチゼミ
5. ニイニイゼミ

(答えは17ページ)
(鳴き声)

- A. ミーンミンミンミンミー
- B. チイー・チイー
- C. オーシイツクツクオーシイツクツク
- D. カナカナカナ・・・
- E. チッ・チッ・チッ・・・

探してみよう

東部丘陵地域は、多くのため池やきれいな谷川などがあり、多くの種類のトンボや水の中の生き物が住んでいます。

ここでは、トンボの仲間たちと水の中に住む生き物の観察の仕方について見てみましょう。

◎トンボの仲間たち

○カワトンボ

このトンボは、山地の水のきれいな所に住み、ヤゴが育った谷川のそばだけで生活します。

羽は、4枚がほぼ同じ大きさと形をしています



カワトンボ

○ムカシヤンマ

このトンボは、他のとんぼと違い飛ぶのが下手です。

幼虫は湿地に住みます。

ヤンマといっても、ギンヤンマなどの仲間ではなく、目と目が離れている原始的なトンボで、生きた化石といわれています。



グンバイトンボ

○グンバイトンボ

グンバイトンボは、清流に住み、限られた分布をする珍しい種類です。

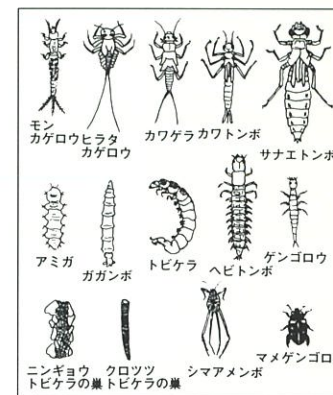
体が細く、目立たないトンボですが、オスの足が広くなって相撲の軍配に似ていることから、この名前が付けました

◎水の中に住む生き物の観察の仕方

谷川などの水の中では、陸上では見られない変わった生き物を見ることができます。

五条川はきれいな川ですが、砂利のほとんどがチャートで角ばっているのので、水の中に入るときには草履などを履いたほうがよいでしょう。

観察する代表的な場所としては、五条川の1号橋の下流左岸（上流に向かって）駐車場横があります。



水の中の生き物

〈水の中に住む生き物の観察の仕方〉

次のような方法で観察してください。

1. 水の中に入り、ザルやタモなどを下流側に受けて、水の中の石を動かしたり、石の下やまわりの水をすくいます。
2. 石を取り上げて、石の表面を見ます。
3. 水の中にたまった落ち葉などをすくいます。
4. 採集した生き物は、場所ごとにピンセットなどで捕らえて、水を少し入れたイチゴや豆腐のパックなどに入れて観察しましょう。



* 川を外からながめているだけでは、その中にどのような生き物が住んでいるのかわかりません。

川は水がきれいなほど、そして、周囲の環境が良いほど多くの生き物が住むことができます。

観察が終わったら、生き物たちは川に返してあげましょう。

近づかないで!!

すがすがしい緑の中を歩きながら、きれいな花やかわいい昆虫たちの姿を見かけますが、ときとして、人間にとって危険な生き物に出会うことがあります。

ここでは、人間にとって危険な生き物を紹介します。

◎山の中で注意する生き物

○注意する動物

田の畦^{あぜ}や湿地に住むマムシに毒があるのは知られていますが、山道などでよく見かけるヤマカガシにも強い毒があります。



ヤマカガシ

○注意する昆虫

腹部に黒と黄色・^{だいだいいろ}橙色のしま模様を持つスズメバチは、攻撃性が強く、その毒性も強いハチです。

特に、晩夏から秋にかけては、ハチの数が多く気が立っているのです、巣の近くには絶対に近寄らないでください。



キイロスズメバチ

○注意する植物

ウルシ科のヤマウルシやヌルデなどは、触るとかぶれる人もいますので気をつけてください。



秋に鮮やかに紅葉するヤマウルシ



ヌルデ

外国からの移住者たち

日本には、外国から入ってきた動植物が数多く見られます。

このように、外国から来て日本に定住した生物を帰化生物と呼びます。

ここでは、帰化生物によって、自然がどのように変化したのか考えてみましょう

◎入鹿池に住む帰化生物

○オオクチバス

オオクチバスは、一般にはブラックバスと呼ばれています。

もともとはアメリカ大西洋岸の魚ですが、大正14年に箱根の芦ノ湖で放流されたものが、日本各地で繁殖しています。



オオクチバス

ゲームフィッシュとして各地に放流され、入鹿池では昭和50年頃、その存在が確認されました。

魚食性が強い^{おとし}ため、ヨシノボリ、オイカワ、モロコなどの魚はだんだん姿を消しつつあります。

○ブルーギル

ブルーギルは、もともと北アメリカの魚です。

名前のブルーギルとは、「青いえら」という意味で、えらぶたが青色の縁どりになってくるのが特徴の一つです。



ブルーギル

この魚も、オオクチバスと同じように魚食性のため、他の小魚やエビ類などはだんだん姿を消しつつあります。

◎郷川の帰化生物

○オランダガラシ

ヨーロッパに広く分布する多年草で、別名クレソンと呼ばれ、広く一般に知られています。

日本には、1870年頃移入され栽培されていたものが、その後野性化したものです。

高さは30～40センチになり、直径6ミリ程の白い花を4～6月に付けます。



オランダガラシ

〈調べてみましょう〉

- Q 1. 帰化生物がたくさんいる場所は、帰化生物がいない場所に比べてどこが違うのか調べてみましょう。
- Q 2. 帰化生物が増えると、その周辺の自然はどのようなようになるか調べてみましょう。



〈12ページの答え〉

(セミの種類)

1. ミンミンゼミ
2. ヒグラシ
3. ツクツクボウシ
4. チッチゼミ
5. ニイニイゼミ

(鳴き声)

- A. ミーンミンミンミンミー
- B. チイー・チイー
- C. オーシィツクツクオーシィツクツク
- D. カナカナカナ・・・
- E. チッ・チッ・チッ・・・

協力者(敬省略)

大竹 勝

(財)日本モンキーセンター学芸員
愛知県自然観察指導員連絡協議会会長
愛知県環境審議会委員
犬山市自然保護審議会委員

写真協力(敬省略・あいうえお順)

大竹 勝

桑野 修

林 英昭

参考文献の紹介

| | |
|---------------------|---------|
| 原色日本植物図鑑 草木編(上・中・下) | (保育社) |
| 野外観察図鑑 2 植物 | (旺文社) |
| 山溪ハンディ図鑑 1 野に咲く花 | (山と溪谷社) |
| 野外ハンドブック 樹木 1・2 | (山と溪谷社) |
| 尾張の自然ガイドー自然は友達 | (愛知県) |
| 犬山市史 史料編二 自然 | (犬山市) |
| 犬山市の植生 | (犬山市) |
| 犬山の自然をたずねて | (犬山市) |
| 犬山市の昆虫 | (犬山市) |
| 犬山市の自然 | (犬山市) |
| 犬山市の野鳥 | (犬山市) |
| 犬山の魚たち | (犬山市) |

おわりに

このパンフレット作成にあたっては、大竹先生にご協力をいただき多くの資料や貴重なご意見ご指導をいただきました。

なお、内容についてお気づきの点がありましたら犬山市役所までご連絡ください。

発行 犬山市役所 総務部 企画課 企画調整係
犬山市大字犬山字東畑36番地

